

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	アジア・イスラーム型共生文明の構築をめぐる国際学生ワークショップの開催
代表者名	小杉泰（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、アジアにおけるイスラーム型共生文明システムの構築をめぐる国際学生ワークショップを英国ダラム大学にて開催するものである。本事業では、特に、近年、東南アジアで台頭しているイスラーム経済を取り上げ、その可能性と意義について本学およびダラム大学の学生を主体として開催するワークショップで議論を行う（本事業における「国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成（ミッション 2）」への貢献）。ワークショップの開催場所である英国ダラム大学イスラーム経済金融研究センター（Durham Centre for Islamic Economics and Finance）は、イスラーム経済研究の世界的拠点であるとともに、アジアからの多くの留学生を受け入れ、イスラーム経済研究の最新成果をアジア・イスラーム型共生文明の構築にどのように活用しうるかについて、現地のフィールドワークにもとづいて探究を行っている。また、本学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科とは、10 年以上にわたってイスラーム経済研究の分野で研究交流を続けており、本国際学生ワークショップはその一環で開催されるものであり、また、アジア・イスラーム型共生文明の構築というオンデマンド型の研究課題へと研究協力分野を拡大することを企図したものである（「相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築（ミッション 3）」への貢献）。</p>

成果の概要
(800 字程度)

本事業による国際学生ワークショップは、2018 年 7 月 24 日から 25 日まで 2 日間におわたって英国ダラム大学にて開催された。会議には、本事業経費によって派遣された 1 名の教員と 2 名の学生に加えて、本学からは、教員 1 名、学生 3 名、合計で教員 2 名、学生 5 名、ダラム大学からは、教員 5 名、学生 13 名が参加した。

会議では、小杉泰本学教授 (Islamic Economics and Halal Studies - Towards the Islamic Civilizational Revival: A Kyoto Manifesto) および Mehmet Asutay ダラム大学教授 (Financialisation of Islamic Finance: An Islamic Moral Economy Perspective) による基調講演が冒頭にあり、そこでは、アジア・イスラーム型共生文明システムの構築に向けて、台頭しつつあるイスラーム経済がどのような提案と貢献ができるか、その可能性の高さも含めて解決すべき重要な課題が数多く示された。その後、学生主体の各セッションでは、近代資本主義とは異なる独自性を持つイスラーム経済が、21 世紀のアジア地域における持続可能な経済社会の構築にどのように貢献しうるかについて活発な議論が交わされた。特に、イスラーム世界で成長著しい独自のフードチェーンシステムの可能性、イスラーム型社会福祉システムの普遍性、そうした取り組みの背景にある規範的モラルの非イスラーム世界での活用可能性、アジア独自の生態や社会慣習に根ざした経済発展径路のあり方などが中心的に議論された。本ワークショップの発表者の多くは、イスラーム経済が専門であったが、アジア・イスラーム型共生文明システムの構築をより広い学問領域から提唱していくためには、イスラーム経済研究とアジア研究諸学のより密接な交流が必要であるという意見も提起された。

本事業の教育効果として、ワークショップに参加した本学の大学院生が、現地の教員・研究者と非常に積極的に研究交流を行っている光景が至る所で見られたのは特筆に値する。また、ワークショップを海外で組織することをも大きな経験になったと思われる。次世代の学術研究を担う大学院生に対して、今後もこうした機会を継続的に提供することの重要さとその効果の大きさを痛感させられた会でもあった。